

## 令和4年度 第1回羽曳野市立図書館協議会会議録（要録）

日 時： 令和4年11月24日(木) 午後1時30分～午後3時

場 所： 羽曳野市役所 A棟西会議室

出席者：(委員) 上野委員、脇谷委員、菊川委員、黒川委員、田村委員、河津委員、菅谷委員、森委員  
(教育委員会) 村田教育長、吉澤生涯学習室長

(事務局) 南里課長、奥野館長、宮下主幹、白江主事、細井再任用、岩佐再任用

欠席者： 橋本委員、松井委員

傍聴者： 1人

### ●開会

教育長挨拶

**教育長**：全国学力学習状況調査によると、家にある本の冊数が、羽曳野市は全国的にも府下的にも少ない。本を多く読んでいる児童・生徒ほど教科の正答率が高い傾向にある。学校の授業時間以外に普段どれだけ読書をしているか、では、小・中とも「全くしていない」の回答が多く、羽曳野市では中学3年生は5割以上が読んでいない。スマホ、ゲームに費やす時間が非常に長く、家庭での読書も課題かと思う。家庭の協力が必要で、学校教育を含めて注意、啓発していかなければならない。今日の会議で忌憚のない意見ををお願いします。

(教育長 公務のため退席)

事務局より、議事録の要録をWEB及び中央図書館にて紙ベースで公開すること、そのため会議を録音することを報告

この協議会の様子を写真撮影することの了解を得た

委員の紹介後、出席者7名（このあと1名遅れて到着）で協議会成立の報告、事務局職員の紹介  
事務局より図書館協議会について条例により説明

会長挨拶

**会長**：最近の新聞の図書館に関する記事や近隣の状況を見ると、羽曳野の図書館も岐路にあるのでは。力を合わせて何かできればと思う。よろしくをお願いします。

### ●議事

議題 令和3年度図書館の事業活動報告について

**事務局**：(配布資料『令和3年度図書館業務活動報告書』により説明)

令和3年度は昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症の影響が大きく、4月から6月にかけて緊急事態宣言を受けて約2ヶ月休館し、上半期に予定していた行事が中止、延期となった。休館しながらも予約の受付と貸出は途切れずに行った。学級文庫や幼稚園など団体への貸出を積極的に行った。コロナの状況を見据えながら利用者の方の安全の確保と利便性を両立するためにできることを模索する一年だった。

また、コンピュータシステムの更新の準備を進めるとともに、本を提供する取次業者の業務撤退によりデータベースを全て入れ替えるという、節目の年となった。

利用実績や開館日数が例年よりかなり少なくなった。コロナ、システム更新作業のための休館の影響と考える。一方、学校図書館からの要望の増加等により団体貸出は増えており、学校図書館への貸出

は過去最高になった。除籍数が多いのは休館中に書庫の整理作業を行ったことによる。予約は毎年増加しており、WEB による予約が増えている。行事については、夏の終わりからコロナの状況を見ながらおはなし会を再開していき、「おはなし会ボランティア入門講座」も春から秋に変更して実施した。その他、人が密集しないで楽しんでもらえることはないかと企画を考え、「としょみくじ」「本のPOP」「おたのしみ袋」などのイベントを行った。

職員研修ではコロナの関係でリモート研修が増えた。積極的に参加し、休館中も含めて職員のスキルアップに努めた。令和4年度からの新しいサービスに向けての助走期間の一年でもあったとも言える。

#### 議題 令和4年度上半期の事業について

##### 事務局：(配布資料により説明)

令和4年度から図書館のシステムが替わり、新しいことができるようになった。

新たなサービスとしては、「図書館アプリ」、「読書手帳」——これは(前回の協議会でご意見があったように)一言自分の感想を書けるようにしている——、「電子図書館」がある。電子図書館は、商用コンテンツのほか、独自資料として、どなたでも見ていただける市の広報や観光マップ等がある。市民が作成された羽曳野市・藤井寺市の歴史の本もデータを提供いただき、電子図書館で公開している。イベントのうち、「子ども1日図書館員」は3年ぶりに実施できた。

新たな試みとしては、まず中央図書館で「Doki☆土器 古墳のヒミツ大公開! 子どもも聞ける世界遺産講座&遺跡ストラップ作り」を実施した。これは世界遺産登録3周年を記念して世界遺産課とコラボで実施した。次に、古市図書館での「HALLOWEEN NIGHT」、閉館後の図書館での夜のおはなし会を開催した。また、中央図書館で開催した「リサイクル市」は、除籍本・寄贈本を利用したもので、会場のLICのアトリウムが人でいっぱいになり、集客は図書館行事として過去最大かもしれない。同時にボランティア団体に協力いただき活動の紹介をしていただくスペースを設けた。いくつかのイベントは校長会に協力を依頼して各小中学校にポスターを掲示してもらおうという形で学校ともコラボした。

古市図書館の児童サービス強化を始めており、いろいろな取組を実施している。古市小学校との連携の取組も始めている。

10月からの休館日・開館時間の変更等は、心配していたほどの混乱は現時点ではないが、休館日の翌日のブックポストの返却処理が多く作業負担になることと、利用者にとって返却処理が翌日になることが課題。利用者には理解を求めながら進めていきたい。

委員：リサイクル市に関わらせてもらった。ボランティア団体同士が顔をあわせる機会がなかったが、お互いの活動の話ができたのはよかった。これをきっかけにボランティアの連携を深めていければと思う。

#### 議題 図書館正規司書職員の新規採用を求める意見書について

会長：前年度の協議会の最後に協議会として意見書を提出することとし、4月14日に市長と教育長あてに提出した。教育長、生涯学習室長、図書館課長に出席していただき話を聞いていただいた。その後どうなったかおたずねします。

室長：教育長からその日のうちに市長に意見書をお渡ししました。直接返事はないが、黒川議員からも議会中に質問いただき、市立図書館のあり方についての議論の中で検討してまいります、とお答えしました。その後もサマーレビューという議論する場でも市立図書館のあり方は課題となっており検討中で、結果が出ましたら皆様方にお返しするべきものと思っています。もう少しお時間をいただければ

ばと思います。今年度の採用はありませんでしたが、図書館課から人事課に要望書をあげていますので、次年度以降何らかの形で採用していただけるよう強く要望していきたい。

**会長：**黒川委員が議会で、協議会から出した意見書について質問していただいた。正規職員は4名だが、市側は再任用職員も正規職員としてカウントした数を議会での回答として出された。それでいくと正規職員は8名で、他の市には劣らないのではないかとのことになってしまう。誤解を招く回答ではないか。正規職員と再任用職員を区別して回答いただけるほうがいいのではないかと思います。

**室長：**人数の公表の仕方は検討してまいります。

その他

**委員：**タブレットが導入されて部分読みをする子どもが増えているように思う。学校でもじっくり読む、調べ学習を本を使ってする、ということをしていきたいが、タブレットが便利で、本を使っての調べ学習が減っているという実感がある。学校でも読書月間として図書館まつりをしている。先生方やいろんな方から紹介してもらった本を読むことを子どもたちは楽しみにしている。市立図書館のイベントも学校で紹介していけたらと思う。

**委員：**幼稚園児はスマホを持っているわけではないが、お母さんたちが自分のスマホを子どもに見せておけばおとなしくしているだろうと考えるケースがある。自分で（本を）見て学ぶことは基本的なことだと思う。毎日絵本を読み聞かせたり月1回おはなしのボランティアの方に来ていただいたりややっているが、保護者に対する啓発が大事だと思う。近くに図書館があり、時々行かせてもらったりしている。「じっくり」が難しいが、積み重ねだと思うのでこつこつやっていたらと考えている。

**委員：**活動報告を見ると、貸出が下がってきている。コロナでの休館はどこでもそうだが図書館界全体で見たら8割くらいに減っているかと思うが、羽曳野の場合はそれより多いのではないかなと思う。子ども人口は減ってきて高齢者が増えている現実があり、年齢別登録状況を見ると高齢者の登録が増えている。児童奉仕は大事だが、これからのサービスのあり方を考えた時、図書館が高齢者の居場所になるよう、(高齢者向けの)イベントを実施したりなどを考える必要があるのではないか。コロナでいろんな行事ができなくなって残念で、子どもの成長にも影響するのではと懸念している。資料費とサービス実績は連動するものなので、蔵書の中身も含めて考えてはどうか。その中で電子図書館だが、お金を使っているが利用実態はどこ(の自治体)でも少ない。なにだったら見てもらえる(利用してもらえる)のか考えてほしい。購入している資料が適切か見直しも必要ではないか。

**委員：**行かせてもらっているおはなし会ではできるだけ子どもたちが興味を持ってもらえるような題材を考えているが、なかなか難しい。残念なのは、以前よりおはなし会に来てくれる子どもが少なくなっていて同じ顔ぶれであること。新しく来てもらえるいい方法はないか。場所を考えたり、先ほどの古市図書館の夜のおはなし会では、おはなしはよくわからなかったが雰囲気がおもしろかったと子どもが言ってくれた。おはなし会も場所、時間、雰囲気を考えると変わってくるのかなと思った。

**委員：**子どもが本を読まなくなった話があったが、個人の体験として、以前は絵本の読み聞かせや本を読むことが好きだった孫が、今はずっとYouTubeを見放した。家庭でそうなのだから、学校や幼稚園でどのように本を読む環境を作っていけばいいのか先生方は難しいだろうと思う。

電子図書について、今は過渡期だがこの先数年のうちに紙でなく電子図書になっていくかもしれないことを考えたら、課題を解決しながら進んでいくことが必要かと思う。

新しいシステムには感心した。以前は予約するまで手間がかかったが、新しいシステムではすぐ予約できるし本の簡単な内容や表紙もわかる。予約しやすく、借りやすくなった。高齢者でも簡単に利用できるシステムで、よかったと思っている。市民ひとりあたりの資料費を見ると、もっと増えたらいいのと思う。

**委員：**新しいシステムが便利になったことをもっと周知してほしい。

先日あった講演会に行けなかったが、本の中の主人公の声を自分の声当てはめて、本は楽しいなどという経験がある。今の子どもはそういうことが少なく、ケータイに負けない、いい案がないかと思う。先に話のあった司書の採用について、図書館のあり方について話をしていくということだったが、話し合いをしているか。司書については何年越しかの課題だが方向性も出ていないのか。非正規でまかなえていけばいいというのではなく、もう少し詰めていってほしい。

**委員：**自分たちが小学校におはなしに行くと子どもたちはよく聴いてくれるし、紹介した本を司書の先生が用意してくれ、子どもたちがすぐに手に取れる環境を作ってくださっていてありがたく思っている。本を紹介したら興味をもってくれるんだなあとわかる。

(市長との) 地域区長懇談会が自分の地区であり、何を質問してもいいとのことだったので、正規司書職員が1人で今年度に定年になり、その他の正規職員も3名、羽曳野市の図書館が直営として存続していけるのかどうか心配している、と話をさせていただいた。運営に関してはいろいろ議論している、ツタヤということもあると言われ、愕然とした。委託になると図書館で成功したことも企業秘密として市内の図書館に情報が共有されずに図書館が成長していくことが無理になるのでは、とおたずねした。職員の数については増員を考えているので心配なく、と仰った。運営の仕方についてはいろいろと議論しているのでお待ちください、今すぐどうこうという話ではないのでご心配ないよとのことだった。図書館協議会でいつもお願いしている、市の直営の公共図書館として羽曳野市の図書館を運営していただくことが切なる願いだ。いつかは出てくるだろうと思っていたが、今回ツタヤの名前が出た。学校図書館との連携も心配であるし、先日の講演会でも問題点の話があったが、市内の本屋さんが大きな企業が独占することで潰れてしまうという危機もあると思う。公共図書館であることがどんなに大事か、委託になってしまったらどんなことになるのか考えていただき、教育委員会から市の方に強く言っていただいてなんとか努力している今の図書館をもっと発展していけるような方策を考えていただきたい。

**会長：**図書館というのは、市が作った単独の機関ではなく、学校、幼稚園、地域、ボランティア、みんなで作って上げてきたものだと思う。図書館は市民が自分たちの暮らしを豊かにするために要望し、積み上げてきて、今のシステムが出来上がっている。それを一時の財源を削減するというだけのために積み上げてきたものをなし崩しにすると、いったん壊れたものを積み上げるのにまた何十年とかかかってしまう。今の職員が新任のころから知っているが、そのあと正規の司書職員としての補充が、定年を迎える今まで一切ない。陵南が40年を迎えるがこの間に正規司書職員の補充がないということはどう考えてもおかしい。次回の協議会では、再度意見書を出したい。賛同いただけるか。(全員賛同)では、次回の協議会に案を用意してくる。

**委員：**「図書館は人」とよく言われる。図書館はあらゆる部署と連携できる「可能性」がある。これからの市のあり方、例えば高齢者が健康で暮らしていけるように、とかSDGsの課題など、市で何かの取り組みをするときに図書館は絶対に役に立つ。それは、市民一人一人が問題意識をもつことが(課題解決には)大事だから。各部署と連携するためには正規職員がどうしても必要であり、そういう意味で何年も言い続けてきている。正規職員の確保が図書館の未来、ありように関わってくる。頑張ってきた職員が再任用で残っているうちに、ノウハウを引き継げるような形をとるためにも、早期の採用は羽曳野市の運命の分かれ目だと言える大事なことだ。協議会でも一致して声をあげていきたい。

## ●閉会

生涯学習室長挨拶